

中学校特別支援学級におけるキャリア教育の充実を図る取組に関する一考察

～キャリア発達を促す単元「進路を語る会」の在り方と単元間の関連性の検証～

井上 美由紀 ・ 若松 昭彦*

1. はじめに

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、平成 30 年度より研究主題を「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を育むための学びを豊かにする授業の創造」として研究を進めている（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校, 2018）。本校特別支援学級は、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を、キャリア教育の視点から、「自分らしい進路を考える力」とした。その力を育むために、今の自分を見つめたり、将来の社会生活とのつながりを考えたりすることを通し、なりたい自分や、なりたい自分になるためにはどうすればよいかを考え、表現し行動を促す単元を、主に生活単元学習や特別活動（学校行事、学級活動）の中で行っている。一人一人の生徒が、自分らしい進路、生き方を考え、自分の思いを語り、その実現に向けて取り組もうとする力を育てていきたい。

2. 目的

これまで実践してきた単元「進路を語る会」と単元間に関連性をもたせたキャリア教育の取組の効果を、その取組を 2 年間積み重ねた生徒の変容から検証し、キャリア教育の充実を図る効果的な取組について考察する。

3. 方法

1) 対象

本校特別支援学級第 2 学年生徒 4 名は、知的障害を有する。生徒 A は自閉症で、療育手帳 B 判定を有する男子生徒である。自分の思いや考えを伝えることができ、集中している時は他者の話を聞き理解することができる。情緒が不安定な時は、大声で要求し続けたり、泣いて訴えたりすることがある。生徒 B は広汎性発達障害、ADHD を併せもち、療育手帳 B 判定を有する男子生徒である。自分の思いを伝えたり、他者の話を聞いたりすることができる。質問に対しじっくり考えないで「わかりません」と即答したり、自分で判断や決断することが少なく他者に確認を求めたりすることが多い。生徒 C は自閉的傾向があり、療育手帳 B 判定を有する男子生徒である。自分の思いや考えを伝えることができ、関心がある話を傾聴することができる。興味・関心のあることを一方的に話したり、他者の話や指示を最後まで聞いていなかったりすることがある。生徒 D は、療育手帳 B 判定を有する女子生徒である。物事をじっくり考え自分の意見を伝えることができ、他者の思いや考えを聞こうとすることができる。慣れ親しんでいる仲間に対しては、思いやりのある言葉掛けをしたり、自信をもって自分の意見を発言したりできるようになってきている。

2) キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性と「進路を語る会」の単元計画

(1) キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性

図 1 に、本学級がキャリア教育の視点で設定した資質・能力「自分らしい進路を考える力」を育むための単元（単元名・指導形態・指導内容・指導目標）と、その単元間の関連性を示す。

* 広島大学大学院 人間社会科学研究科

Miyuki INOUE, Akihiko WAKAMATSU

One consideration about the approach to plan the improvement of career education in junior high school special support classes: Inspection the way of the unit "meeting talking about a course" and association between units to promote the carrier development

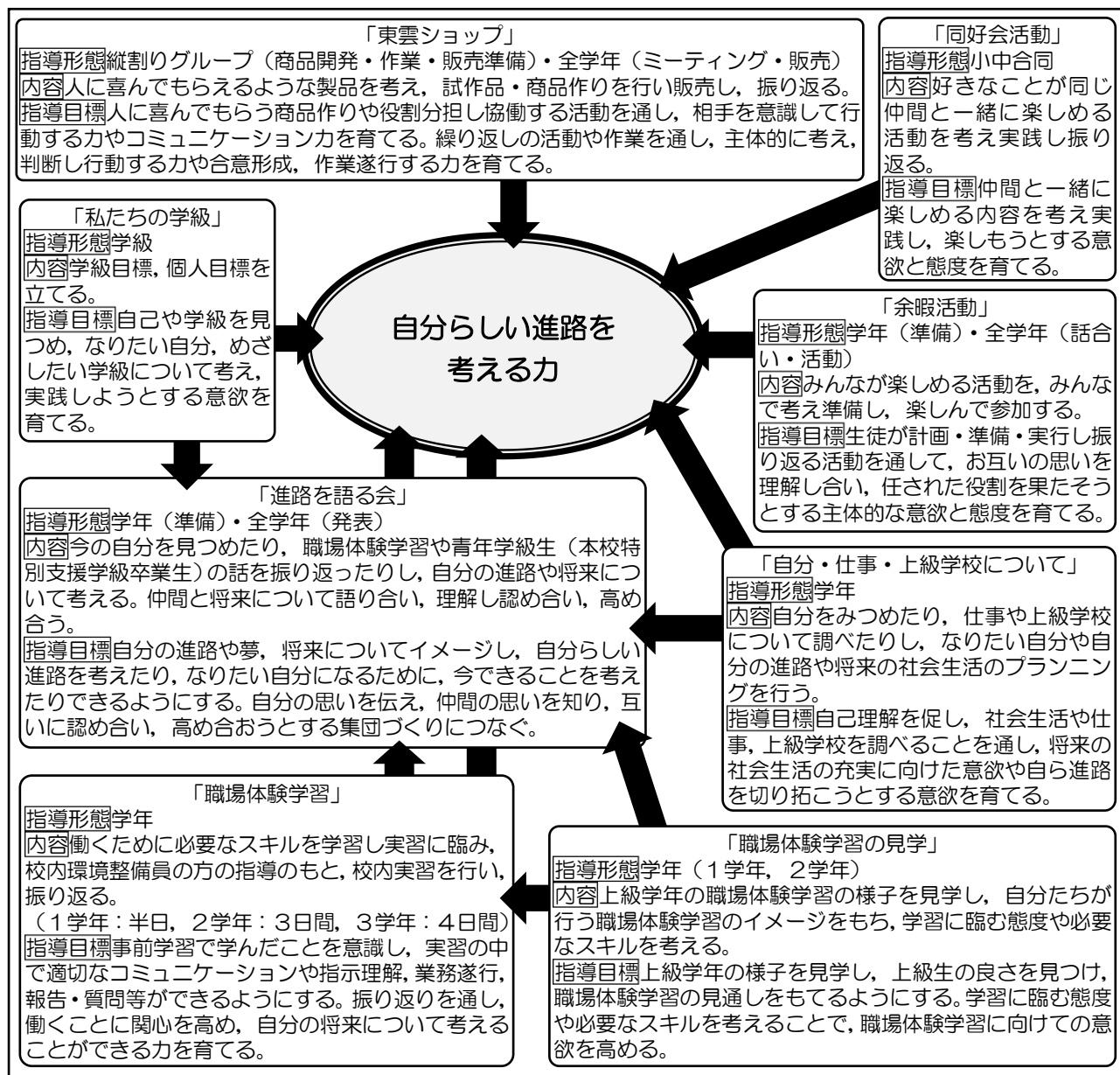


図 1. キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性

(2) 「進路を語る会」の単元計画

進路を語る会の単元計画を表 1 に、キャリア発達を促すための単元間の関連性を、生徒のワークシート中で示した図を図 2 に示す。生徒に「進路を語る会」の学びが、その他の学習とつながっていることの理解を促し、「自分らしい進路を考える」ためには、自分を見つめたり、自分で調べたり、体験したり、先輩からの話を聞いて考えたりすることが大切であることを意識できるようにした。

表 1. 進路を語る会の単元計画（全 10 時間）

1	進路を語る会に向けて（目的・内容・学習の見通し）	1 時間
2	今の自分や上級学校・職種調べ、職場体験学習の見学、職場体験学習を振り返ろう	2 時間
3	青年学級生の話を聞こう（質問を考え、回答を聞く）	3 時間
4	自分の進路や将来に向けて、今できることを考えよう	2 時間
5	進路を語る会	2 時間

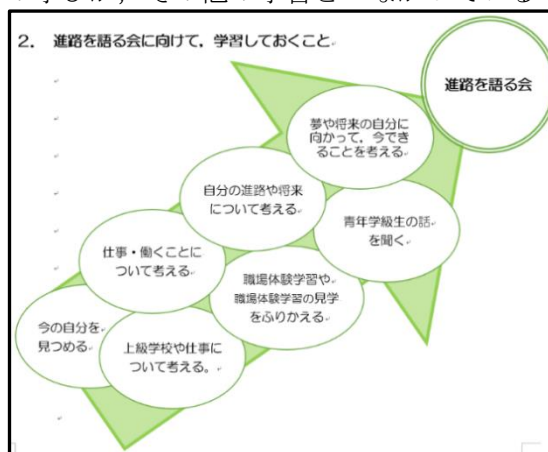


図 2. 生徒ワークシートで示した単元間の関連性

(3) 分析方法

これまで実践してきた単元と単元間に関連性のあるキャリア教育の取組の効果を, 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(平成 30 年 3 月)第 3 編第 2 章第 5 節 1 (3) キャリア教育の充実に示された内容をもとにした 4 つの視点(①自分自身の見つけ方の深まり, ②学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す力, ③様々な生き方や進路選択の可能性があることへの理解, ④自らの生き方を考え主体的に進路を選択しようとする意識)で, その取組を 2 年間積み重ねた生徒の変容から分析し, キャリア教育の充実を図る効果的な取組について考察する。

生徒の変容を見取る場面は, 対象生徒 4 名の 1 年生時と 2 年生時の「進路を語る会」の授業場面とし, 一人一人の生徒の発表内容, 質疑応答時の言動, ワークシートの記述内容で比較する。

4. 結果

1) 1 年生時と 2 年生時の「進路を語る会」での発表内容の比較

発表では, 一人一人の自分らしい進路に対する思いを, 下記の 3 つの視点を含んで語る内容となっているため, この 3 点について比較し, 表 2, 表 3, 表 4 に示す。

- ①高校生活や社会人生活や仕事(働くこと)について分かったことや思ったこと
- ②自分の将来の進路・仕事・生活や夢について考えたこと
- ③将来なりたい自分に向かって今できること

表 2. 高校生活や社会人生活や仕事(働くこと)について分かったことや思ったことの比較

	1 年生時	2 年生時
生徒 A	<p>高校：チャイムが鳴るかは, 学校によって違う。</p> <p>会社：社員食堂があるところもないところもある。</p> <p>職場体験：始めは道具の使い方がわからなかったけれど教えてもらってわかりやすかった。広い場所を掃く時は, ごみを集める場所を何か所に分けた。長い時間座って仕事(草抜き)をするのは大変だった。環境の先生はいつもやっていて大変だと思う。働くとは：大変でとても特別でした。</p>	<p>高校：10分前に着席する。</p> <p>社会人：週5日間働いている。仕事は楽しい。</p> <p>職場体験：雨の日に, 掃き掃除や草抜きをして, 大変だった。</p>
生徒 B	<p>高校：3年生までである。高校のかばんは, 決まっている学校も自由な学校もある。</p> <p>社会人：バイクの免許を持っている人はいない。</p> <p>職場体験：道具の使い方を教えてもらい, 難しかったけれどがんばった。最初はわからなかったけれど, どんどんなれてきた。落ち葉集めが大変で, 草抜きも結構疲れた。</p> <p>働くとは：思ったより大変だった。忙しい仕事だけれど集中してやりきることが分かった。</p>	<p>高校：休憩時間に音楽を聴くことができる。部活は 18:30 までであり, 長い。</p> <p>社会人：お昼ご飯は, A・B に分かれて食べる。ゴールデンウィークは 12 連休あり, びっくりした。</p> <p>職場体験：目標の「お茶は休憩時間に飲む」ができて, 嬉しくて頑張ろうと思った。夜はすぐ寝て夢で明日も頑張ろうという気持ちになった。</p>
生徒 C	<p>高校：体育祭や文化祭がある。休日の過ごし方は, デイサービス, バスケ, 料理, 習い事, ゲーム, ゆっくりする等であった。</p> <p>社会人：パソコンや iPad を使う仕事はしていない。</p> <p>職場体験：いろいろ教えてもらい, わかりやすかった。環境の先生の仕事は大変だなと思った。</p> <p>働くとは：いろいろな仕事があって大変である。</p>	<p>高校：公民という授業がある。ユーチューブを見ることが分かった。</p> <p>社会人：A・B に分かれて働いていることが分かった。</p> <p>職場体験：落ち葉集めをした。三日目は大雨で大変だった。</p>

生徒D	<p>高校：修学旅行の行き先は東京だった。</p> <p>社会人：休日の過ごし方は、人によって違う。</p> <p>職場体験：集中して仕事をするのは大変だった。環境の先生は、長い時間集中して作業してすごいと思った。休憩時間に次の仕事内容を教えてもらい分かりやすかった。</p> <p>働くとは：正しく道具を使うのは難しい。</p>	<p>高校：授業が難しいところやそうでもないところがある。</p> <p>社会人：いいことやきついことがいろいろある。残業がいっぱいあるところとないところがある。</p> <p>職場体験：朝から昼まで外掃除をして大変だった。雨の中でも集中して作業をし、3日間外での仕事はきついなと思った。でも3日間天気がいろいろ変わる中一生懸命やったなあという達成感があった。</p>
-----	---	--

表 3. 自分の将来の進路・仕事・生活や夢について考えたこと

	1年生時	2年生時
生徒A	(※1年生時は発表内容になかった。)	真面目に働きたい。 しごとは新聞記者がいい。理由はすごいカメラを使いたい。
生徒B		みんなにもっと優しくして物が落ちたらすぐ拾う人になりたい。農家で畑を作り、雨で腐らないようにビニールハウスを作って、(作物が)できたら、みんなに届けたい。一人暮らしは大変で全部ひとりではないといけないから、友達と暮らしたい。
生徒C		優しい人になりたい。小さいときから電車が好きで、将来は電車の車掌になりたい。(お客様から)質問された時、明るく丁寧に優しく答えたい。広島で家族と暮らしたい。
生徒D		高校で楽しく授業したい。友達も多く作りたい。高校で携帯電話を使うかもしれないのでメールのやり取りに気を付けたい。社会人になったら、休みが取れる会社に入りたい。残業があっても頑張ろうと思う。大人になったら、楽しく一人暮らしがしたい。妹が結婚してその子供が家に来たりするから一人暮らしは怖くないと思う。いろんな恐竜博物館に行きたいから、いろんな県で暮らしたい。仕事はマンガ家やアーティストなど絵を描く仕事を一生懸命したい。

表 4. 将来なりたい自分に向かって今できることの比較

	1年生時	2年生時
生徒A	しっかり掃除を頑張りたい。	学校のお掃除を頑張りたい。 身だしなみを整えることにチャレンジしたい。
生徒B	言葉遣いに気を付ける。	お手伝いで料理をしたい。 整理整頓をする。
生徒C	クラフトで作品を作ること。	面接練習をして不合格でも何回も合格するまで親と勉強して頑張る。
生徒D	言葉遣いに気を付ける。	3年生になったら、面接練習をがんばりたい。 お風呂掃除と洗濯をたたくことを頑張る。

2) 1年生時と2年生時の「進路を語る会」での質疑応答時の言動の比較

発表では、仲間の思いを聞き合い、質疑応答をし合い、感想を伝えながら語り合う内容になっている。発表後に仲間からの質問に答えた内容、仲間の発表を聞いて質問した内容と回数を比較し、表 5、表 6 に示す。

表 5. 発表後に仲間からの質問に答えた内容

	1 年生時	2 年生時
生徒 A	※ 4 人への質問 (職場体験をして、働くのと勉強するのはどっちがいいですか?) 勉強がいいと思った。	(新聞の記事に何を載せたいですか?) それは、わかりません。 (新聞のことをもう少し詳しく教えてください) 今度、新聞の工場見学に行きます。 (職場体験で何が大変でしたか) 雨の中、草を抜くのが大変でした。 (身だしなみをちゃんとするということは、例えばどんなことですか) ボタンをしたり、名札をすとかです。 (新聞記者って何をやりますか) カメラでニュースをとったりすることなどです。
生徒 B	D さんと同じで、働くのがいいと思う。	(お手伝いで料理以外に何がしたいですか) 食器とかも洗いたいです。料理は、簡単なものから難しいものへチャレンジしたいです。 (得意な料理を教えてください) やきそばです。 (どうして農家になりたいのですか) 僕は畑が得意だし、草抜きも全部とれるし、みんなと働いて、ビニールハウスも作って、ちゃんと腐らないようにして、季節ごとに分けて届けたいです。
生徒 C	働くために勉強していると思う。	(仕事の内容を詳しく教えてください) 電車のアナウンスとかです。 (職場体験で大変だったことは何ですか) 雨の時の草抜きです。 (電車の運転手はしないのですか) 車掌が合格したらやります。 (何行きの車掌さんになりたいのですか) 快速電車がいいけど、車掌はいないから…糸崎行き。 (どうして、快速電車に車掌はいないのですか) 録音があるから。 (アナウンスをするとき、いろいろな駅の名前を覚えられますか) もう覚えました。去年から勉強しとった。 (何駅ぐらい覚えましたか) 海田駅から言ってみます。海田駅・向洋…(岩国まで発表した後、拍手が起こる) (アナウンスもやってみてください) お待たせしました。普通列車の岩国行き、間もなく発車します。閉まるドアにお気を付けてください。
生徒 D	今も勉強しているけど、仕事を大人になってから仕事の授業もいいなと思った。	(マンガ家になりたい理由をもう少し詳しく教えてください) 2 歳からマンガを描いていて、だからマンガ家になりたいです。 (職場体験で頑張ったことを教えてください) 雨の中でやったこと。 (マンガ家になって、どんな絵が描きたいですか) マンガ。 (好きなアーティストの名前を教えてください) アーティストの名前はわかりません。 (残業があったらどうしますか) 頑張ろうと思います。 (アーティストになったら何を描きたいですか) 動物を描いたり…鳥が好きなので鳥を描きたいと思います。

表6. 仲間の発表後の質問内容・感想内容と回数の比較

	1年生時	2年生時
生徒A	(※質問・感想の発表をしなかった)	①時間を守ることを頑張ってください。 ②一生懸命働くことを頑張ってください。 ③どこのフタバ図書ですか。
生徒B	①はっきり大きな声でいっていました。 ②はっきり言っていました。 ③どんな犬を飼いたいですか。 ④どこのスーパーで働きたいですか。	①どこの喫茶店で働きたいですか。 ②どこの本屋さんで働きたいですか。 ③コンビニのレジは大変だと思うので頑張ってください。 ④身だしなみを整えることを頑張ってください。 ⑤やさしく明るい人になってください。頑張ってください。 ⑥マンガ家になって、どんな絵が描きたいですか。 ⑦(職場体験について)3日間きつかったけれど、頑張りましたね。 ⑧残業があったらどうしますか。 ⑨一人暮らしは大変だと思うけど、頑張ってください。 ⑩国外旅行はどこに行きたいですか。 ⑪休憩が少ないことがわかりました。 ⑫来年職場体験をする時に膝が痛くても頑張ります。 ⑬保育士、大変だけど頑張ってください。
生徒C	①大きな声ではっきりしゃべっていた。 ②スーパーで働いたらどんな仕事でしたか。 ③どんな高級車を買いたいですか。	①国内旅行はどこに行きたいですか。
生徒D	(※質問・感想の発表をしなかった)	①何を配達したいですか。 ②何のコーヒーを作りたいですか。 ③なんで、本屋さんで働きたいと思いましたか。 ④旅行に行く時、何人の友達と行きたいですか。 ⑤どんなダンスが好きですか。 ⑥どんな犬を飼いたいですか。

3) 1年生時と2年生時の「進路を語る会」ワークシートの記述内容の比較

ワークシートで、本時の目標に対する自己評価と感想を記述するようにした(図3)。

【本時の目標】

①自分の進路や夢・将来、なりたい自分について考えたことを発表することができる。(知識・技能)
②仲間の思いを知り、共感したり、違いを感じたりし、互いの考え方を認め合い、進路についての考え方を広げたり深めたりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

↓

9. ふりかえり

本時の目標①を評価する

目 標	自分の思いを仲間にしっかり伝えることができましたか。	とてもできた ☺	できた 😊	あまりできなかった ☹
	仲間の思いをしっかりと聞いて、 自分の思いと比べてみることができましたか。	とてもできた ☺	できた 😊	あまりできなかった ☹

(感想)

本時の目標①, ②を評価する

図3. 授業「進路を語る会」の本時の目標を評価するためのワークシート

本時の目標に対する自己評価を3段階（とてもできた, できた, あまりできなかった）で行い, その変容と感想の比較を表7, 表8に示す。

表7. 本時の目標に対する自己評価の変容

本時の目標のふりかえり		1年生時	2年生時
①自分の思いを仲間にしっかり伝えることができましたか。	生徒A	とてもできた	とてもできた
	生徒B	とてもできた	とてもできた
	生徒C	とてもできた	とてもできた
	生徒D	とてもできた	できた
②仲間の思いをしっかり聞いて, 自分の思いと比べてみる ことができましたか。	生徒A	とてもできた	とてもできた
	生徒B	とてもできた	とてもできた
	生徒C	とてもできた	とてもできた
	生徒D	とてもできた	できた

表8. ワークシートに記述した感想の比較

	1年生時	2年生時
生徒A	2年生と3年生は, 職場体験のことを発表しました。	上手に発表できました。
生徒B	職場体験・将来の夢をしっかりと大きな声で言っていました。	うなずく(こと)をしっかり最後までウンといいました。一人暮らし, 友達と住む人がいました。違いはDさんとありました。
生徒C	職場体験のことがぼくにも伝わりました。	大きい声で発表しました。
生徒D	2年生と3年生になったら, 職場体験がふえるのをがんばろうと思います。自分もやりたい仕事もある。2年生と3年生の理由や, 自分にできることで仕事が変わる, 人間関係も大切だとわかりました。家族のためにプレゼントしたり, いろいろあると思いました。	雨の中の草抜きが大変だったことが, 2年生全員同じでした。 自分と同じ仕事の人がいませんでした。 (※同じ仕事を選んでいる人がいないという意味)

5. 考察

上記の結果に関して, 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(平成30年3月)第3編第2章第5節1(3)キャリア教育の充実を示された内容から, 次の4つの視点を取り挙げて検証し, キャリア教育の充実を図るための効果的な取組について考察する。

- ①自分自身の見つけ方の深まり
- ②学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す力
- ③様々な生き方や進路選択の可能性があることへの理解
- ④自らの生き方を考え主体的に進路を選択しようとする意識

1) 自分自身の見つけ方の深まり

表2の職場体験を通して思ったことの発表内容を比較すると, 1年生時では, 初めての職場体験を半日体験することで, 4名とも道具を正しく使うことの難しさ, 長時間集中することの大変さが分かり, 3名は環境職員の大変さを理解し, 長時間毎日作業していることに尊敬の念を抱いていた。生徒A, 生徒Bは, 始めは道具の使い方が分からなくても, やり続けると分かってできるようになることを感じ取ることができていた。2年生時では, 1年生時と同様の仕事内容を3日間行った。3名は3日間仕事を続ける大変さ, 雨の中の仕事の大変さを語っていた。生徒Bは, 自分の立てた目標を達成

できたことが嬉しく、次の日も頑張ろうという気持ちにつながっていた。生徒Dは、3日間の仕事のきつさを感じながらも、一生懸命取り組みやり遂げたことに達成感を感じていた。同様の作業内容で体験日数を増やしたことで、大変な中でも目標や仕事をやり遂げることができる自分に気付くことができたと考えられる。

表5の発表後の質問に答えた内容を比較すると、1年生時には4名に対し同じ「働くのと勉強するのはどっちがいいか」というクローズドクエスチョンが出された。4名とも考えながら答え、その内3名は、将来働くから仕事をする授業もいと職場体験学習の価値付けをしていた。2年生時には、一人一人に次々とオープンクエスチョンがされ、「どうしてそう思うのですか」、「詳しく教えてください」などの問いに、熟考し自分の思いに意味付けをしながら答えていた。

質問が増え、オープンクエスチョンが加わることで、自分なりの思いや考え方を再構築しようとする姿が見られ、自分を見つめる深まりが見られた。

2) 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す力

表4の将来なりたい自分に向かって今できることの内容を比較すると、1年生時は4名中3名が職場体験を通して感じた自己の課題を学校生活でも取り組もうとする内容になっていた。2年生時では、4名とも職場体験での課題や青年学級生の話から、掃除や身だしなみ、整理整頓、面接練習など学校生活の中で取り組みたいことを考えたり、将来の自分の生活を想定し、料理や風呂掃除など家事を家庭生活の中でも頑張りたいと思うようになっていたりしている。

表5では、1年生時から職場体験を行うことで、自分も将来働くようになることをイメージしながら学習していることが分かる。2年生になると、農家になりたい理由を、自分が学び経験した中で得意になった作業を、将来の仕事にも活かしたいと思ったり、車掌になるために、駅名やアナウンスの内容を覚えようとしていたりしている。今学んでいることと自分の将来のつながりをイメージし、つながり方を考え具体的に表現するようになってきている。

このことから、職場体験や青年学級生の話聞く機会を積み重ねることで、自分の将来の生活に具体的なイメージをもつようになり、中学生である今からでも自己実現に向けて取り組むことができることを広く考えることができるようになると考察できる。

3) 様々な生き方や進路選択の可能性があることの理解

表2の高校生活や社会人生活について分かったことの発表内容を比較すると、1年生時では、行事や場所、持ち物について聞き取ることができていた。2年生では、時間や日数、授業や仕事内容にまで関心を広げ聞き取ることができていた。生徒Dは、高校によって授業の難しさの違いがあったり、職場によって厳しさの程度や残業の有無の違いがあったりすることを聞き取り理解し、自分の進路を考え発表する場面では、「休みの取れる会社に入りたい。残業があっても頑張りたい。」と話していた。様々な生き方を知り、少しばかりの困難さを受け入れつつ、なりたい自分に向かって頑張ろうとする思いを表現していたと考えられる。

表6の仲間の発表後の質問内容・感想内容と回数を比較すると、1年生時では、4名中2名のみが仲間の発表に関連付けて質問をしたり、仲間の発表の仕方の良さを感想として述べたりしていた。2年生時では、4名とも仲間の発表内容に関連付けた質問をすることができていた。質問数は、生徒Cのみ減ったが、他の3名は増えている。仲間の将来の生活や進路選択に関心をもてるようになったと考えられる。また、生徒Aと生徒Bの感想内容では、仲間の目標や将来の夢を聞いて、「〇〇を頑張ってください。」と応援する言葉や、生徒Bの「来年職場体験をする時に膝が痛くても頑張ります。」と先輩の経験談を聞いて、自分も困難さを覚悟し頑張ろうとする言葉もあった。

表7の本時の目標②「仲間の思いをしっかりと聞いて、自分の思いと比べてみることができましたか」の自己評価では、4名とも1・2年時に「とてもできた」または「できた」と評価している。

表8の感想を比較すると、1年生時では、4名とも先輩の職場体験の話に関心をもって聞くことができていたことが分かる。このことは、自分が経験した職場体験と比較しやすかったからだと考えられる。2年生時では、生徒Bと生徒Dは、仲間の発表と自分の考えを比較し、その違いに気付き受け止める内容を記述していた。

青年学級生や先輩の話を知ったり、**図1**のようにキャリア発達を促すための単元間の関連性をもたせたりすることで自他の進路について関心を持ち、それらを積み重ねることで様々な進路選択や生き

方があることをより広く知り, 困難なことがあっても自分も頑張ろうとする気持ちが育まれていくと考えられる。また, 仲間と進路を語り合うことを積み重ねることで, 様々な仲間の目標や将来設計を知り, 自分との違いに気付き, 受け止め, 応援しようとする気持ちが育まれていくと考えられる。

4) 自らの生き方を考え主体的に進路を選択しようとする意識

表 3 の自分の将来の進路・仕事・生活や夢について考えたことの内容を比較すると, 1 年生時では自分を見つめたり, 職場体験をしたりしたことを通して, なりたい自分に向かって今できることを発表したため, 将来の進路を語る内容はなかったが, 2 年生時にはどんな人になりたいか, どんな高校生活や社会人生活をしたいか, どんな仕事に就きたいかという問いかけをすると, 「〇〇のできる優しい人になりたい」, 「一生懸命に, 真面目に働きたい」, 「〇〇なので一人暮らしをしたい」など, 自分の生き方や将来の生活をより具体的に, 理由を付けて考えることができていた。また, 4 名とも将来の仕事については, 自分の好きなことや得意なこととつながっている仕事内容を選択していた。

表 7 の本時の目標①「自分の思いを仲間にしっかり伝えることができましたか」の自己評価では, 4 名とも 1・2 年時に「とてもできた」または「できた」と評価している。

表 8 の感想を比較すると, 1 年生時は自分が発表した内容や, 先輩の発表内容や発表を聞いて思ったことを記述していたが, 2 年生時には生徒 A と生徒 C は, 「上手に発表できました」, 「大きい声でしました」と自分の思いを語れたことに満足しているような記述になっていた。

図 1 のようにキャリア発達を促すための単元間の関連性をもたせ, 多様な他者と関わり合いながら違いを受け入れたり, 自分の思いを見つめたり, 自分の好きなことや得意なことを見つけ広げたりできるような機会を設定したりすることで, 自分らしい生き方や進路を考え, 選択しようとする意識が高まっていくと考えられる。

5) まとめ

「進路を語る会」と, 単元間に関連性をもたせた取組の効果を上述の 4 つの視点でまとめ (**表 9**), キャリア教育の充実を図る取組について考察する。

表 9. 「進路を語る会」と, 単元間に関連性をもたせた取組の効果

① 自分自身の見つめ方を深める効果的な取組
<p>スモールステップでステップアップする学習内容をやり遂げる取組は, 達成感を感じつつ, 頑張ったからできるようになったという自己の成長に気付くことができる。</p> <p>個々の思いや考えに対する質問を増やしたり, オープンクエスチョンを加えたりする取組は, より深く新たな視点で自分の思いと向きあったり, 自分なりの思いや考え方を再構築しようとするにつながる。</p>
② 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す力を育む効果的な取組
<p>職場体験や青年学級生の話聞く機会を積み重ねる取組は, 自分の将来の生活に具体的なイメージをもてるようになり, 将来の生活と今の学校・家庭生活とのつながりを見通すことができるようになり, 自己実現に向けて中学生の今からでも取り組める内容を広く考えることができるようになる。</p>
③ 様々な生き方や進路選択の可能性があることの理解を促す効果的な取組
<p>青年学級生や先輩の話聞いたり, キャリア発達を促すための単元間に関連性をもたせたりする取組は, 自他の進路について関心をもち, その取組を積み重ねることで様々な進路選択や生き方があることをより広く知り, 困難なことがあっても自分も頑張ろうとする気持ちが育まれていく。また, 仲間と進路を語り合うことを積み重ねることで, 様々な仲間の目標や将来設計を知り, 自分との違いに気付き, 受け止め, 応援しようとする気持ちが育まれていく。</p>
④ 自らの生き方を考え主体的に進路を選択しようとする意識を高める効果的な取組

キャリア発達を促すための単元間に関連性をもたせ、その中で多様な他者と関わり合いながら違いを受け止めたり、自分の思いを見つめたり、自分の好きなことや得意なことを見つけ広げたりできるような機会を設定し繰り返す取組は、自分らしい生き方や進路を考え、選択しようとする意識を高めることにつながる。

表 9 の取組の効果から、図 1 で示したようなキャリア教育に関する単元を設定し積み重ね、単元間の関連性をもたせることは、キャリア教育の充実を図ることにつながると言える。

本研究では、「進路を語る会」の単元と「進路を語る会」に関連する単元を主に取り上げたが、図 1 に示した他の単元「東雲ショップ」、「同好会活動」、「余暇活動」での学習が、「進路を語る会」へも反映されていることが、生徒の発言内容から示唆された。

例えば、自分の好きなことや得意なことに関係のある仕事に就きたいという発言には、「同好会活動」での学習が影響していると考えられる。また、「みんなと一緒に働いて、できた作物をみんなに届けたい」の発言には、「余暇活動」の学習、更に「(車掌になって、お客様から) 質問をされた時、明るく丁寧に答えたい」、「残業があっても頑張りたい」の発言には、「東雲ショップ」の学習との関連性がうかがわれる。

これは、「同好会活動」が、自分の好きなことや得意なことを共有し合い、活動内容を広げ深めて考えて実践しようとする意欲と態度を育てること、「余暇活動」は、みんなが楽しめる活動を考え伝え合い、お互いの思いを理解し合いながら計画し、任された役割を果たしながら参加しようとする主体的な意欲と態度を育てること、また、「東雲ショップ」では、お客様に喜んでもらえる商品の企画や製作を行い、実際に販売する活動を通し、相手を意識して行動する力や作業遂行力を育てることを目標としているからであると推測される。

本研究を通し、キャリア教育の充実を図ることは、特別支援教育の理念にある「自立や社会参加に向けた主体的な取組」につながると感じられた。

今後は、キャリア発達を促す単元を積み重ね、単元間に関連性をもたせたキャリア教育の取組を続けながら、生徒一人一人の特性や発達段階を捉えた系統性のある学びを取り入れ、一人一人のキャリア発達を促し、キャリア教育の更なる充実を図っていきたい。

【 引用・参考文献 】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを豊かにする授業の創造—教科等の独自性を生かした東雲がめざす授業の方向性—, 東雲教育研究会実施要項, 2018.

文部科学省, 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説, 総則編 (幼稚園・小学部・中学部), 2018.

文部科学省・国立教育政策研究所・生徒指導・進路指導研究センター, 「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える! キャリア教育 — 個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ— 「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット), 2016.

文部科学省・国立教育政策研究所・生徒指導研究センター, キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書, 2011.

文部科学省, 中学校キャリア教育の手引き, 2011.